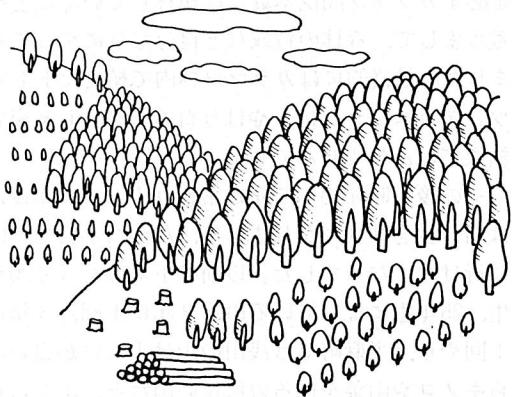


育林と間伐材利用に打ち込む

当麻町森林組合

浅田文作さんに聞く



育林に情熱をそいで37年、顕著な業績を上げておられる当麻町森林組合の浅田組合長さんをお訪ねし、今までの歩みから、今後の対応までいろいろ聞かせていただきました。

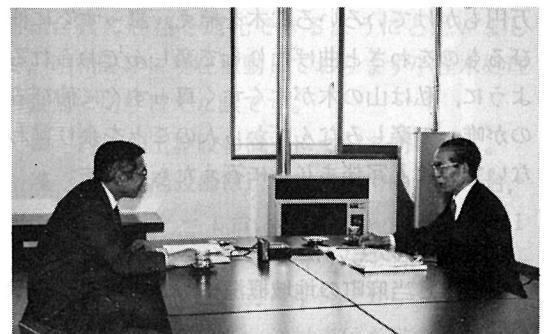
(編集子)

山の楽しみ

山内組合長さんは昨年、北海道産業貢献者として知事表彰を、また東北・北海道地区緑化推進大会で緑化功労者として大会長表彰等をうけられたとおり、森林と木材に生命を打ち込んでこられました。今日は、いろいろお聞きしますが、まず、組合長さんが林業・林産業のお仕事につかれたいきさつから、お話を伺いたいのですが。

浅田 私が山に関心をもったのは大分おそれんです。昭和22年に町議に出まして3年目から町有林とかかわりをもち、7期28年間のうちの25年間は町有林の仕事にたずさわった関係から、昭和30年から森林組合の監事を仰せつかって、以来、監査や森林の育成等の仕事をやってきました。

その間、町から町有林の運営等について相談をうけていましたが、私自身も山を持ちたいと思うようになりました。しかし、財政的に容易ではありません。幸いに昭和何年でしたか民有林のいわゆる手持資金制度ができまして、その制度を利用させてもらい、はじめて自分の山2.3haを獲得した訳です。その山林は造林もしてありましたが全く



聞く人 北海道林産技術普及協会

山内 賢治

を必ずカラマツ間伐本数だけ植林していくことを考えまして、森林の育成など自分なりにやってみました。最終的にはカラマツ林内で植えたトドマツ、アカエゾマツは、やはり育ちが必ずしも良い結果ではありませんでした。

その後、昭和53年ですか常務理事に、1年後には組合長を仰せつかりまして、なかなか自分の山に行けなくなりました。以前は下刈りだって20年生、25年生になっているのを2年に1回、3年に1回やり、当麻町では浅田の山は手入れが良いからキノコや山菜を探るのに良い山だと、よく言われたものでした。しかし、私が組合長の仕事をするようになってから行って見る暇が少なくなり、また、体力的にも70才を過ぎて無理がきかなくなっていました。息子が山林を引き継いでやってくれるかと思っていましたが、本人は全く関心がないようです。今でもカラマツの造林地の一部が残っていますが、20何年を過ぎてなんとか一応の山になっていると思っています。最初の理想通りには、なかなかいかないものです。

私は、町有林の管理運営の仕事についたのがきっかけで山の木を育てる道を歩んで来ましたが、植林は財産造りを抜きにしても大変楽しいものだと思います。楽しい山にすればすべてを忘れる——振り返ってそんなことを考えさせられます。当時、暇さえあれば山を行っていたので、友達や近所の人から、こんな小さいものを育てて自分の一代に金にならないことを、どうしてやっているんだと聞かれて、私は皆さんにあなた方は庭に何百万円もかけていろいろな木を植え、真っすぐに伸びるものをおわざと曲げたりして楽しんでおられるように、私は山の木がすくすく真っすぐに伸びるのが唯一の楽しみなんだから人のことを余り言わないでくれと冗談まじりに答えたものです。

森林組合の生いたち

山 内 当麻町の地域概況についてお聞かせ下さい。

浅 田 当町は、北海道の中央部穀倉地帯、上川支庁管内のほぼ中央に位置し、北海道の屋根と

いわれる大雪山の西麓ふもとにあります、北側は石狩川に沿って比布町と隣接し、南西は旭川市、東側は上川町および愛別町と隣り合っています。上川盆地の一部を形成し、石狩川、牛朱別川、当麻川の河川流域に沿って地味肥沃な農耕地が広がっています。地質土壤について申しますと、石狩川および牛朱別川流域の平坦地のほとんどは植質壤土で、特に、石狩川の氾濫による沖積土によって美田地帯が形成されております。北部および東西部に広がる丘陵地帯は、大部分、植質土で、標高300m前後の山地は表土の浅い褐色森林土です。

次に、土地利用の形態別面積から申し上げますと、町の面積が20629haでして、内訳は、森林が66%で13596ha、耕地が21%で4292ha、その他は原野、宅地です。このうちの森林の内訳は、道有林が4986ha、当麻町有林が3868ha、旭川市有林が1377ha、私有林が3365haとなっております。

山 内 組合の設立から今日までの歩みについてお話しいただけましょうか。

浅 田 組合の前身は、旧森林法によって強制加入権を持つ追補責任当麻町森林組合として昭和16年に設立されたものでした。その目的は、国土保全、災害防止等が主でしたが、ちょうど、世界大戦突入の寸前でしたから、国家目的を主体として戦争遂行の資材調達、集荷配給機関でもあった訳です。

終戦後、昭和27年3月に協同組合の出資施設組合として改組され、旧組合員全員がこれに参加しました。当時、当麻村、永山村、東旭川村の3自治体と一般組合員で構成され、3自治体の長が組合役員として参画していたのですが、自治体の合併等で改められてきました。昭和39年度より役員数も改められ、全員が地元から選出されています。

間伐材の加工に取り組む

山 内 組合は、養苗から林産加工販売に至る幅広い事業をされており、加えて上川中部における間伐材流通センターの役割りも引き受けられていますが、組合事業の内容についてお伺いします。

浅田 組合は、一般民有林を始め、当麻町有林、旭川市有林、大雪営林署の仕事をやってきました。事業は、指導部門、販売部門、購買部門、利用部門ほか、おっしゃるとおり幅広くやっております。

まず、販売事業ですが、昭和60年度の実績で申しますと、工場原材料の販売は約9766m³で、内訳は、トド・エゾ一般材が67%，カラマツ一般材が33%です。一般販売のほうは7148m³で、中味は、雑木一般材が23%，トド・エゾ一般材が9%，カラマツ一般材が3%，雑木パルプ材が49%，カラマツパルプ材が13%，トド・エゾのパルプ材が2%となっています。工場原材料販売と一般販売、合わせて約16914m³です。

加工事業の販売量は約9179m³で、内訳は、トド・エゾマツ製材が3670m³、カラマツ製材が1488m³、トド・エゾのチップが1964m³、カラマツチップが1555m³で、その他としてカラマツ円柱材や杭材などもやっております。

購買事業としては、トウヒやヒバ等を約3万7千本取り扱いました。また、養苗事業では、補助対象のトドマツ苗を約2万本、対象外のトドマツ苗を約5万本ほど販売しました。ヒバ苗も若干ですがやりました。

森林造成事業の概要を申しますと、造林の仕事としては、当麻町有林の枝条整理ほか3件、下刈り約217ha、新植20ha、除間伐約82ha、天然林改良約61ha、公団造林の根踏9ha、下刈り187ha、新植7ha、除間伐約95ha、旭川市有林の下刈り約

49ha、地権約10ha、保安林の下刈り78ha、新植約14ha、作業道開設700mといったところです。また、この外、治山工事として林道刈り払い約101km、作業道開設等約10kmを、林道工事として生産林道4路線約4kmの仕事をしました。この外の利用事業としては、素材運搬、ブルトーザーの重機利用、森林公園や町の委託の仕事等もやっております。

山内 加工部門は間伐材に重点を置かれていると聞きましたが。

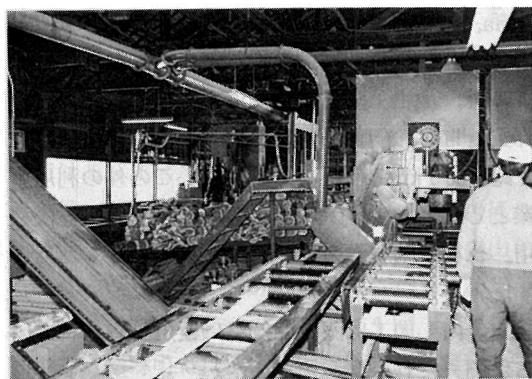
浅田 昭和45年度より第一次林業構造改善事業の実施で、素材生産施設、造林施設、協業の推進等で作業能力が一段と向上して、良質の林產品の生産につながりました。更に、昭和49年度より第二次林業構造改善事業の実施で、残された素材生産施設の作業機の充実、林道整備事業、チップ生産施設の設置等の整備を進めてきました。しかし、その後、木材は非常な不況に落ち込んだものですから、このままでは工場の採算がとれない、小径木処理を重点にした設備に切り替える必要があると考えました。

当麻町の町有林は3868haで蓄積が35万4000m³、うち、人工林は1051haで蓄積2万4000m³また、私有林は3365haで蓄積18万m³、うち、人工林は2082haで蓄積9万1000m³です。その人工林は間伐の時期にきていましたし、昭和53年からは旭川市と4町の間伐材流通センターも引き受け、その会長の役を仰せつかったものですから、これらの市町村から出てくる間伐材の付加価値を高め、少しでも組合員に利益を還元できるようにと思いまして、昭和58年に現在稼動しております小径木処理の設備に切り替えた訳です。

山内 加工施設の概要について伺います。

浅田 工場設備は送材車付き帶の2盤1台、ツインバンドソー1台、テーブルバンドソー1台、ギャングソー1台、カットソー2台、チッパー1台、ロータリーバーカー1台、カットバーカー1台ですが、このうち、送材車付き帶の2盤、ツインバンドソー、ギャングソー、チッパー、ロータリーバーカーは、先ほど申しましたとおり新し





製 材 工 場

くしたものです。また、工場、林道、造林、苗畑等の作業能率を上げるための機械車両として、ブルトーザー4台、ログローダー2台、積込ローダー1台、トラック4台、ダンプトラック1台、トラクター1台、リフト1台、ジープ1台、人員輸送車2台、計18台を使用しています。

山 内 製材は梱包材が主ですか。

浅 田 そうです。梱包材が主体ですが、その他、ミサワホームさんの仕組み板等とか、 2×4 工法の建築材等も扱っております。構造材については、昭和23年に工場を設けてから永い間の得意先がありますので、できる限り扱いてあげております。仕組み板は全部東京行きで、梱包材は大部分が東京、一部は横浜へ送っています。

校倉ハウスとカラマツ円柱材

山 内 先ほど、組合の加工事業のなかで円柱材について触れられましたが。

浅 田 近年、ログハウスに対する一般の関心が高まっています。なんといっても、どっしりした重量感、それに暖かみのある肌ざわりを感じる

からでしょう。

北海道立林産試験場さんでは、昭和54年からログハウスの研究に取り組まれ、今日、「北海校倉ハウス」と命名されているものを開発されました。当組合は試験場さんから技術指導をいただき、北海道林産技術普及協会のもとで、昭和58年から実際に円柱の製作や組み方を勉強させていただきました。その翌年、協会の中にログハウス建設部会を設けられ、日本建築センターの構造評定に合格、60年には建設大臣の特別認定書の交付を受けました。更に、61年に建設省から丸太組み工法の告示が出て、ログハウスを建てやすくなりました。木材需要の拡大、特に間伐小径木の利用促進からみて、喜ばしいこと思います。

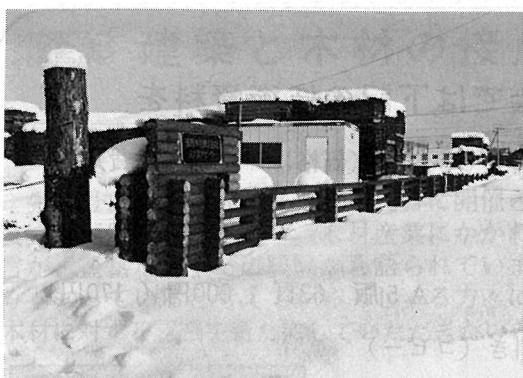
組合では、これまでに円柱材を使った観光施設の看板やフェンス、あるいは、小規模ですが何棟かの校倉ハウス等をやりました。加工事業の販売数量の3%に過ぎませんが、組合収入面ではプラスになっておりますので、今後も続けていきたいと思っております。

今こそ組合員の結束で

山 内 現在、林業・林産業は、依然として大



北海校倉ハウス（旭川駅横の軽食喫茶）



円柱材フェンス（浅野木材旭川支店原木・広葉樹製品管理センター）

変厳しい状況下に置かれていますが、組合はどのようにこれに対処していくかについて、組合長さんのお考えをお聞きしたいと思います。

浅田 おっしゃるとおり、林業・林産業は、国内では木材需要の低迷から脱し切れず、国外からは市場開放の要求、輸出攻勢、加えてドル安円高の追い打ちをかけられて、まさに有史以来の難局に立たされております。

この中にあって、どのように対処していくかは大きな課題です。ズバリこれだという考えは浮か

びませんが、組合員、従業員、役員が一丸となって力を合わせ、この危機を切り抜けていきたいと考えています。工場の経営等につきましては、現在でも皆が一所懸命やってはいますが、より工夫、より合理化に努めて、低コストを図っていきたいと思います。それに、売先の安定したところを取り引きして、間違いを起こさないことが大切です。また、造材もやっていますが、工場原木は安いものを購入するよう、関係者のご協力を得ながら昨年も努めてきました。それから、林業についてですが、育林はなんといっても組合の使命です。このような不況下では、育林する意欲も失いがちです。しかし、今こそ組合員はこの試練に耐えなければなりません。それで、担当者に個々の組合員宅を訪問させて、間伐や下刈りの手入れをするよう勧めています。これらの仕事を順調に進めていくことで、組合の経営も成り立っていく訳です。先ほど、申しましたとおり、組合員、従業員、役員が一丸となってやることが、この厳しい中を生き残る道ではないかと思います。

山内 本日は、ご多忙中、貴重なお話をいろいろ承り、本当に有り難うございました。

当麻町森林組合

設立	昭和16年
	“ 27年改組
役員	組合長理事 浅田文作 常務理事 小林寿男 理事 安田松夫 “ 藤本周吉 “ 早坂鍛嗣郎 “ 太田亨 “ 野村弘幸 “ 小広川俊三 “ 坂本末市 “ 片原信一
代表監事	寺島正
監事	飯田政昭
部長	山中英雄

資本金	1億600万円
年商	約7億円
従業員数	約70名
営業種目	①指導部門 ②販売部門 工場原木、一般原木、 製材、チップ他 ③購買部門 購買、養苗 ④利用部門 造林、治山工事、林道 工事運搬、受託事業 工場設備 小径木処理設備1式
事務所	北海道上川郡当麻町1365番地